

病院薬剤師の確保と薬剤師偏在の解消に向けた取り組み

岐阜県病院薬剤師会会長
鈴木 昭夫 Akio SUZUKI



岐阜県病院薬剤師会（以下、岐阜県病薬）の会長を拝命しております、鈴木昭夫と申します。皆様は、岐阜県といえば何を想像されるでしょうか？ ある調査では、1位「白川郷合掌造り集落（白川村）」、2位「下呂温泉（下呂市）」、3位「飛騨牛（飛騨市）」という順番でした。これらは岐阜県北部の飛騨圏域で観光等いただくことができます。岐阜県は日本のほぼ中央に位置する内陸県であり、総面積が全国で第7位（10,621 km²）と大きく、飛騨以外に岐阜、中濃、西濃、東濃の5つの圏域に分けられます。上記観光地以外にも、岐阜圏域では国重要無形民俗文化財である「長良川の鵜飼（岐阜市）」、中濃圏域では水とおどりの城下町「郡上八幡（郡上市）」、西濃圏域では日本の滝百選に選ばれている「養老の滝（養老郡養老町）」、東濃圏域では四季折々の溪谷美を満喫できる「恵那峡（恵那市）」など、豊かな自然・歴史・伝統文化を岐阜県の様々な場所で体感することができます。

一方、医療の観点からは、岐阜県はその大半を森林が占めており（可住地面積率は全国で45位）、愛知県と接する市街地を除き、「広大な医療圏」、「少子高齢化・人口減少」、「医療従事者の枯渇と偏在」という課題を抱えています。例えば、飛騨圏域は総面積が富山県とほぼ同じですが、この広大な圏域に7つの病院しかなく、これらの病院の総病床数1,484床を40名程度の病院薬剤師がカバーしています。厚生労働省が全国統一的な尺度で算出した薬剤師偏在指標では、岐阜県は0.69（全国36位）と低く、特に、飛騨、中濃医療圏では偏在指数が0.6以下、西濃、東濃医療圏でも0.7以下であり、早急な対応が必要とされる薬剤師少数区域に分類されています。

岐阜県病薬は、病院薬剤師を確保し業態の偏在を解消するため、第8期岐阜県保健医療計画の策定当初より関与し、岐阜県の薬剤師会、医師会、病院協会、大学、行政と連携し、本問題に取り組んでいます。具体的には、これらの団体で構成される薬剤師確保対策推進協議会において、薬剤師が不足する病院等に就職する薬剤師に対し修学金返還資金の貸与など経済的な支援を行う制度や、基幹病院等から薬剤師が不足する病院へ薬剤師を出向する制度などを検討しており、また、薬学生・薬剤師に対する県内病院・薬局の特徴・魅力等の効果的な情報発信や採用活動等への支援として、病院・薬局合同インターンシップ、薬剤師就職フェア、未就業・育児休業薬剤師のための就職・復職研修会を開催しています。

岐阜県における薬剤師偏在の解消に向けた取り組みはまだ始まったばかりですが、この問題を薬剤師会や大学、行政はもちろん、医師会や病院協会と共有できたのはとても大きな収穫でした。県内の幾つかの病院からは出向に関する相談を受けており、薬剤師だけでなく、医師や看護師等の多職種や行政と連携し、本問題の解消に取り組んで参ります。会員の皆様からのご支援、どうぞよろしくお願い致します。